

平成27年度第2回千葉市資産経営推進委員会議事録

1 開催日時 平成27年10月16日(金) 15:00～16:00

2 開催場所 千葉市生涯学習センター 研修室2

3 出席者

(1) 委員 (7名)

稲生 信男委員(東洋大学国際地域学部 教授) ※委員長

山本 俊哉委員(明治大学理工学部建築学科 教授) ※副委員長

倉斗 綾子委員(千葉工業大学工学部デザイン科学科 准教授)

佐藤 修 委員(一般財団法人 日本不動産研究所 千葉支所次長)

鈴木 雅之委員(千葉大学キャンパス整備企画室 准教授)

清水 源之委員(公募市民)

杉田 奈穂委員(公募市民)

(2) 事務局 (7名)

初芝資産経営部長、神田資産経営課長、堺資産経営課長補佐、
他資産経営課職員4名

4 議題

(1) データ評価の結果について

5 議事の概要

(1) データ評価の結果について

事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答が行われた。

6 会議経過

(1) 開会

事務局 開会

(2) 議題

ア データ評価の結果について

稲生委員長 それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

議題1 データ評価の結果について です。

それでは、事務局から説明をお願いします。

神田資産経営課長 以下の資料に基づき、説明。

・資料1 データ評価の結果について

・参考資料1 図書館の利用度について

稲生委員長

説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明について、ご意見、ご質問等がございましたら、お願いします。

鈴木（雅）委員、いかがでしょうか。結論として、原則は延床面積当たり利用者数を採用し、総合評価で蔵書数当たり貸出冊数も活用するような形で対応するということですが。

鈴木（雅）委員

スクリーニングをする時の指標が3つというのは決まっているのでしょうか。蔵書回転率を入れて、4つの指標でデータ評価行うということではできないのでしょうか。

神田資産経営課長

データ評価では、建物性能と利用度と運営コストの3つの視点からスクリーニングを実施しています。

鈴木（雅）委員

他の施設もそのようにしてきているので、今回も3つ、ということでしょうか。

神田資産経営課長

今年は、資産の総合評価も3年目となり、これまでの2年間も建物性能と利用度と運営コストの3つの指標でスクリーニングを行っております。

今のご意見は、利用度の中でも面積当たりの利用者数なのか、それとも蔵書回転率なのかということで、利用度の中の議論であると考えております。

利用度の中の指標を2つ持つというやり方もあるのかもしれませんが、この2年間のデータ評価結果との整合が取れないことも懸念されます。

確かに、規模が違う図書館の利用状況を測る評価指標といたしましては、鈴木（雅）委員がご指摘された蔵書回転率や、今我々が提案しているような面積当たり利用者数が適当ではないかと考えています。

千葉市が今まで実施してきた事務事業評価などでは、入館者数や貸出冊数という指標で見えていたようですが、この場合、施設の規模が全く考慮されません。規模が大きい施設が有利になりますので、規模を考慮した指標で見ますと、やはり面積当たり利用者数か蔵書回転率で見れば、その図書館がどれだけ使われているかというのが分かるかと思えます。

ただ、次回の委員会で、総合評価（案）をお示しいたしますが、中央図書館のように、図書の保存機能を併せ持った施設では、蔵書回転率は少し不利になります。

例えば美浜図書館は図書の貸出しを中心に行っていて、中央図書館のような保存機能はありませんので、蔵書回転率が非常に高く出ます。図書館の性質によって違うところがあると思いますので、一概に蔵書回転率で全て測ることはできないのではないかと思います。

稲生委員長 これは、総合評価をスクリーニングするための指標ですよ。総合評価というのは、基本的に老朽度合を評価していく、ということですよ。

あるいは、利用度とかサービス面での評価も入っているのでしょうか。

つまり、施設面の老朽性というのが、主な総合評価の柱ということで、確認をされるのであれば、基本は建物の性質を表す延床面積でもいいのかなど。要するに、何に代表させるのか、ということだと思います。

蔵書回転率の方は、むしろソフト面の指標で、例えば、古い図書館でも最新刊がたくさん並んでいけば、利用者が多くて、よく借りられているということもあるかもしれません。

その辺を再確認ですけれども、何に重きを置いて、このスクリーニングをかけていくのでしょうか。

堺資産経営課長
補佐 建物性能は主にデータ評価で見っていますが、そもそも総合評価というのは、ここで言われている利用度については、現状の利用状況、いわゆる実態面です。それから、子ども向けの施設であれば、少子化の影響がどのように出るのかなど、将来も見すえた利用状況の変化を考察します。

それと、施設の再配置の可能性です。周辺にどういう施設があつて、将来どういうカップリングが為し得るか、というようなことも検討します。

さらに、資産の立地特性や、民間に活用させた時のポテンシャルがあるか、といったことも含めて、多面的な切り口で見っていくという作業をします。

その前段で、数字だけでおおまかに線引きをするというのが、今回のデータ評価ということになります。

今、焦点になっている蔵書や利用の実態面については、詳細に分析を行っており、それが、総合評価シートや図書館グループとしての分析結果に反映されてくることになります。

鈴木（雅）委員 建物性能と利用度と運営コストの3つで評価して、いずれか1つでも課題があれば、総合評価を実施するということですよ。

堺資産経営課長
補佐 そのとおりです。

稲生委員長 ウェイトは全て均等ですよ。単純に偏差値より上か下かで判断して、3つの指標のどれかで引っかかれば、すくい上げるという形ですよ。

神田資産経営課長 そのとおりです。

鈴木（雅）委員 この結果は、若葉図書館西都賀分館が、たまたま建物性能で課題があつたから拾われたということで、もし建物性能が良かったら、蔵書回転率は悪いけれども、課

題なしになってしまうということですよ。

神田資産経営課長 面積当たり利用者数に課題がなかったため、建物性能に課題がなければスクリーニングで通過してしまうことになります。

そういう視点からいきますと、若葉図書館泉分館は、平成26年度の利用者数は約3万6千人ですが、分館の平均は、約10万人です。土気図書室が約5千人で格段に少ない状況ですが、泉分館も分館平均と比べると、やはり少ないのではないかと思います。

蔵書数は多くありませんので、蔵書回転率に課題がないということになっていますけれども、やはり分館の中では、土気図書室の次に利用者数が少ない施設を、課題なしとしていいのか、ということになります。

稲生委員長 しかし、仮に蔵書回転率を入れて、指標を4つにしても、結果的には面積当たり利用者数に課題があれば、総合評価を実施するわけですよ。

鈴木（雅）委員としては、2つの利用度の指標で幅広く見て、スクリーニングをかけてはどうか、というご意見ですよ。

鈴木（雅）委員 そのとおりですが、先程のお話のように、過去2年間のやり方との関係もあるとは思いますが。

稲生委員長 結局、連続性の問題ですね。

蔵書回転率は、我々が議論しようとしている側面ではなく、ソフトウェアの話という感じがします。住民の好みの本があるかないか、という面での評価ですよ。そこで、蔵書回転率が低いから課題ありとして、総合評価にかけるというのは、多少、毛色が違うような気がします。

事務局側でも、参考資料としては、蔵書回転率を使おうとしているわけですよ。

堺資産経営課長 補佐 そのとおりです。この参考資料1は、会議資料として公表もします。

稲生委員長 若葉図書館泉分館であれば、利用者数が少ないので課題があり、蔵書回転率も低いので、総合評価の中で参考値としていくということですね。

鈴木（雅）委員 結果としては、課題がある施設が総合評価に回るのでもいいんですけども、今後もしこのように、他の指標があった場合には、それも含めて、総合評価で検討するというのであれば、今回は、面積当たり利用者数で利用度を見てもいいのではないかと思います。

堺資産経営課長
補佐 過去のデータ評価では、利用度の取り方の1つとして、稼働率で見えています。しかしながら、稼働率が出せない施設については、利用者数で見えていくということで、稼働率か利用者数、どちらか代表的な指標を選択してきたというのが、これまでのやり方です。

やはり、事務局としては並立で2つ採用というよりは、比較した上でこちらを採用したいと考えています。

稲生委員長 参考値としては、蔵書回転率を使うということは確かなようですので、鈴木（雅）委員、よろしいでしょうか。

鈴木（雅）委員 結構です。

稲生委員長 他に、いかがでしょうか。

清水委員 確かに、ハコモノの観点から見ていくと、延床面積当たりの利用者数が妥当かと思います。先程、委員長がおっしゃったように、利用度については、ソフト面の問題になると思います。このソフト面を切り離して本当にいいのかなど。

ハコモノを分かりやすく数字で分析するには、出てくる数字をそのまま見るのがいいわけですがけれども、隠された、ソフト面から出てくる数字もある程度加味していかなくては、施設そのものが、自助努力として成り立ちにくくなってくのではないかと思います。

ハード面から見れば、止む無しではないかと思いますが、ソフト面については、今後、総合評価で見ていくべきだとは思いますが。

杉田委員 参考資料1で、蔵書回転率が出ていますので、蔵書数も書いてあると規模が把握しやすいのではないかと思います。

堺資産経営課長
補佐 蔵書数の規模が絶対値としてあった方が良いというご意見ですよね。

杉田委員 蔵書回転率が出ているので、可能ではないかと思いますが。

堺資産経営課長
補佐 可能です。ただ今ご指摘いただきました蔵書数につきましては、資料の公表時に掲載いたしますので、ご了承いただければと思います。

鈴木（雅）委員 前回の委員会でも、蔵書数の話が出ていたと思います。中央図書館は、全国的にも規模が大きく、蔵書数も多い図書館だと思いますが、データ評価では、面積当たり利用者数が少し低いという結果が出ています。イメージとは違っていたので、総合評価にかけるのは、少し違和感がありました。

神田資産経営課長 確かに、中央図書館の蔵書は、約100万冊で、地区館は20万冊前後ですから、約5倍になります。

佐藤委員 総合評価では、必ずそこが浮かび上がってくるということですね。

神田資産経営課長 面積が大きいために、面積当たり利用者数が少なく出てしまいます。

佐藤委員 中央図書館として必要な役割がプラスされているということですよ。機械的なスクリーニングだけでは、捉えられないということですよ。

神田資産経営課長 定性的な部分については、総合評価の中で見ていきたいと思います。

佐藤委員 利用度の話がありましたので、今度はハード面のことについて触れていきますと、建物性能では、残耐用年数が15年以下という具体的なスクリーニングになっていますけれども、あと15年しかないということで、建物としての寿命を終えるのか延ばすのか、つまり、今後、延命していくといくらぐらいお金がかかるか、延命しないで統合した方が良いのか、というような、総合評価の中で枝分かれを考えるとすれば、残耐用年数が15年以下でも、利用度や施設の役割からすると、延命する意味が強いというか、プラスになるというようなことは、総合評価の観点として考えられているのかなと思います。

そういう、スクリーニングした後の統一的な総合評価のルールみたいなものが、プラス面でもマイナス面でも見えてくると、市民にも、役割として大事である、とか、これは無駄なお金がかかりそうだ、ということが分かると思います。

現状の利用度や運営コストと、ハード面を統合して、お金が少なくなっていく感覚を総合評価でうまく組み込めると説得力があると思います。

稲生委員長 それはアクションプランの中で検討するのではなかったでしょうか。

堺資産経営課長 補佐 アクションプランは、施設単体というよりは、圏域における再配置という観点から、今後どのようにコストを抑えつつ、サービスを維持していくかということを考えていきます。

また、総合評価の中でも、施設を大規模改修するためには今後どれくらいの費用がかかって、その中で今の利用度を見ると、あまり利用されていないのにお金をつぎこむのかというバランスは、これまでも見えています。

従いまして、例えば、平成25年度に評価した「京葉銀行プラザ」のような費用負担の重い施設については、見直しとさせていただいていますし、そこは、総合評価でもバランスを見えています。

稲生委員長 資料の中に蔵書回転率があるので、伺いますけれども、基本的に図書館の蔵書というのは、特色があるのでしょうか。つまり、あまり利用が無いけれども、歴史的価値がある本が中央図書館に置いてあるとか、その他の地域の図書館というのは、個別で揃えるべき本が均等に割り振りされているとか、ということがあるのでしょうか。

堺資産経営課長
補佐 大きく言いますと、中央図書館以外となると、市民に身近な本が中心になってくるといことはあります。ただ、それぞれの図書館にも、千葉市の郷土に関する本は、若干は置いてあります。

やはり、中央図書館の方には、あまり広くは読まれないけれども、学術的価値が高い本であるとか、あるいは、相当古くなってきて、地区館では持ってられないような本を1冊だけ中央図書館で保管しています。そのため中央図書館は、幅広い、専門的な本を多く持っています。

稲生委員長 購入選択権のようなものは、各地区館にもあるのでしょうか。それとも、中央図書館の方でまとめて購入しているのでしょうか。

堺資産経営課長
補佐 それぞれの図書館には市民からリクエストがありますので、それも見ながら、予算の範囲内である程度選んでいます。ただ、やはり新刊が中心になります。

稲生委員長 それは、正にソフトウェアの話になるので、我々の議論とは、多少ずれてくるのかもしれませんが。

神田資産経営課長 基本的には、各館が予算を持っていて、館ごとに選書します。中央図書館が全部選書して配布するということではありません。

それぞれの館が人気のある本を選んで、集めるようにすれば、恐らく回転率は上がるのではないかと思います。

鈴木（雅）委員 ちなみに、私が聞いたところでは、一番売れている本が、千葉市中央図書館は34冊あったそうです。

佐藤委員 図書館間の本の貸し借りというのはあるのでしょうか。

神田資産経営課長 インターネットで予約できます。例えば、中央図書館にある本を美浜図書館で借りることができます。

初芝資産経営部長 千葉市の図書館はネットワーク化されておりまして、「どこでも借りられ、どこでも返せる」というキャッチフレーズがあります。

ある程度、蔵書に特色を出したとしても、他の館からも予約が出来て、借りられ

ますし、最寄りの図書館に届くという仕組みになっています。物理的には、メールカーという車が動いています。

稲生委員長 蔵書回転率は、それぞれの図書館ごとの数字というよりは、違う館の本も貸出冊数に入っているということでしょうか。

神田資産経営課長 蔵書回転率は、本を所蔵している図書館でカウントされています。そう考えますと、人気のある本を持っている館の回転率が上がると考えられます。

稲生委員長 民間事業者は、きっとその辺がうまいんでしょうね。

神田資産経営課長 ちなみに、中央図書館は千葉駅から少し距離がありますので、昨年度から、駅前の千葉そごうにある三省堂に返却ポストを設置しています。

稲生委員長 コンビニで受け取れるということはないですか。

神田資産経営課長 そこまではまだですが、返却ポストは、利便性を向上するための取り組みの一例です。

佐藤委員 調べものとか、館内で本を読むだけという人もいると思いますが、図書の貸出しという面で考えると、ハコモノの意味合いがどうなっていくのでしょうか。
デリバリーとか電子書籍で代替できるという面もあるような気がします。そういう意味では、今のような貸出し機能のまま、施設を維持し続けると、少しずつしてしまうような気がします。

神田資産経営課長 図書館の機能をどう考えるかということだと思います。中央図書館は、自習室や研究室のような部屋があったり、ラウンジで新聞や雑誌が読めるようになっていて、本を借りなくてもよい、居場所としての機能もあります。
ただ、本の貸出しということだけを考えますと、ここまでのハコモノはいらなくて、サテライトのような拠点だけをもっとメッシュ状に増やせばいいのではないかなど、機能を分ければ可能ではないかということにはなります。

稲生委員長 蔵書数の削減という話は今まで出てないのでしょうか。

神田資産経営課長 削減という話は出ていません。蔵書数は微増傾向になっています。

稲生委員長 老朽化対策の関係で、図書館の統廃合といった話も出てないのでしょうか。

神田資産経営課長 総合評価の中で正にそれを考えていきますが、現状では、具体的にどこの施設と
いうことはありません。

総合評価を行う中では、残耐用年数が5年とか10年などという施設があります
ので、これらの施設をどうするかということは、総合評価シートの中の公共施設の
再配置という項目で示していきます。

堺資産経営課長 図書館側としては、これで全市的にサービスが足りているとか余っているとかと
補佐 いう認識にはなく、まだまだサービスの向上が必要だという立場に立っています。

ただ、一方で我々としては、利用状況を今後見ていく中で、何かできることはな
いかということを考えていかなければなりません。

稲生委員長 今後は、急激に人口減少ですよ。その時に、柔軟な体制で、学校のように統廃
合するということになるのではないかと考えられます。

ただ、学校は児童生徒数が減っていくけれども、図書館の利用者数は必ずしもそ
こまでドラスティックな減り方はしてこないもので、取りあえず残るのではないかと
思います。

あえて言えば、統廃合して合築していくというような方向になるのでしょうか。

神田資産経営課長 統廃合ではありませんが、花見川区役所の1階に、福祉事務所が保健福祉センタ
ーを整備した関係で空いたスペースがあり、そこに花見川図書館瑞穂分館を平成2
9年3月に整備する計画になっています。

空きスペースの有効活用という観点と、瑞穂地区は図書館の空白地帯ということ
もあり、地元の要望にも対応する形になっています。

稲生委員長 ちなみに、改修コストは結構かかるのでしょうか。それから、蔵書は新たに購入
するのでしょうか、あるいはどこかから移管してくるのでしょうか。

神田資産経営課長 中央図書館から本を持ってくるという話もありますが、購入することもあり得ま
す。蔵書の規模は、分館レベルですから、数万冊になるかと思います。

コストは、区役所を改修する費用だけです。

稲生委員長 その他ご意見はありませんでしょうか。

それでは、議題1については、以上で終了します。

(3) その他

稲生委員長 次に、その他ですが、事務局から何かありますか。

神田資産経営課長 次回の会議日程については、事前に調整させていただきましたとおり、12月2
2日(火)の15時30分から開催させていただきたいと思います。

稲生委員長

それでは、本日はこれで終了いたします。

なお、欠席された委員の方には、資料や本日の検討内容について、事務局から説明していただくようお願いします。